



森のなかま

2013年4月号
NO. 60 (継続205号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

パートナー企業様をご紹介します ⑥



今回は三菱倉庫株式会社様です。

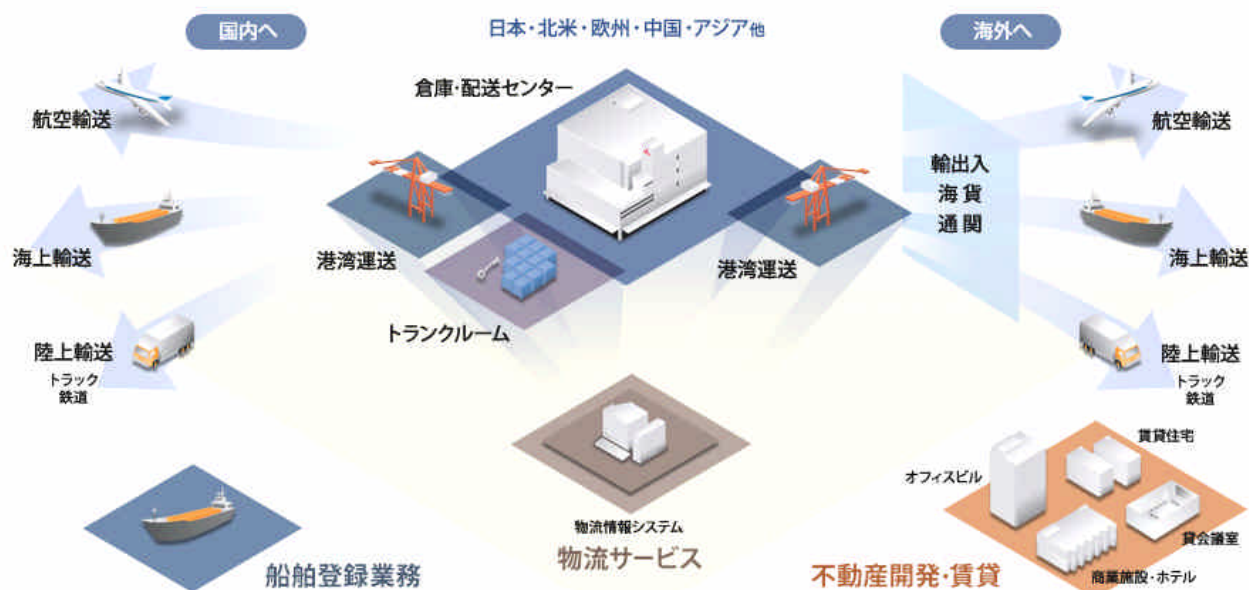
(資料御提供: 三菱倉庫株式会社 様)

三菱倉庫株式会社は、1887年に創業し、倉庫事業に港湾運送事業、国際輸送事業を加え、国内外一体のロジスティクスサービスを展開、特に、米国、欧州発着の輸送や、中国、アジア他での高品質な物流サービスの提供に注力しています。

「環境経営」の一環として「災害に強いエコ倉庫」化を展開中です。物流効率化や太陽光発電・LED照明などにより環境負荷を低減するとともに、災害時の貨物の保全や緊急出荷に対応するために法定基準を上回る耐震性能、非常用発電機の上層階への設置などの災害対策を進めています。

オフィス、商業施設のビル賃貸などの不動産事業も行っています。こちらでも防災、環境対応に注力し、2014年竣工予定の東京・「日本橋ダイヤビルディング」を「災害に強い地球環境配慮型オフィスビル」とする予定です。

三菱倉庫の事業内容



三菱倉庫では生物多様性の観点からの地球環境対応への取組みとして、神奈川県「森林再生パートナー」制度に加入し、2011年4月から活動を開始しました。

第1回目の森林活動は、2011年11月に関東地区在住の役職員32名が参加し、森林インストラクターから自然環境保全の説明を受け、参加役職員の環境問題に対する意識の向上を図ることができました。

第2回目となった2012年6月には、役職員37名が参加し、森林インストラクターの指導のもと、「県自然環境保全センター」の協力を得て活動を実施しました。参加者は4班に別れ、1班が自然観察会、残りの3班が間伐作業を行い、間伐作業では、安全の確保等について指導を受けながら、高さ20m近い木を手作業で計5本伐採しました。また、自然観察会では、丹沢湖および上流河川の周辺を散策し、森林の状況等の説明を受けながら、自生している果実等も味わい、自然に親しみました。

間伐作業



間伐作業（ノコギリで伐る様子）



ロープを使って確実に安全に倒す



木が倒れていく瞬間



玉切り & コースター作り

『三菱倉庫の森』表示板前での全体集合撮影



自然観察



森林部会 『安全管理研修会（危険予知活動とリスクアセスメント）（24年度 第2回）』

2月24日（日）（やどりき水源林 休憩棟 及び パートナー林）

<安全委員会 高橋 修 9期>

今回の研修は、平成24年5月に実施した『間伐作業における危険予知活動・リスクアセスメント』に引き続き「自分を含め参加者の安全を確保するため、作業環境や行動に伴う危険要因を把握し、具体的な安全注意を促すために、危険予知活動等の安全管理手法を身につける。」ことを目的に開催されました。当日は天候にも恵まれ、17名の参加者はまず休憩棟に集合。安全管理委員長の滝澤講師(5期)より安全管理・危機管理の意味や手法である、

(1)ヒヤリ・ハットについて (2)危険予知活動(KYK)と危険予知訓練(KYT) (3)リスクアセスメント

について基本研修を行い、実地研修のためウシロ沢入り口のパートナー林に移動。

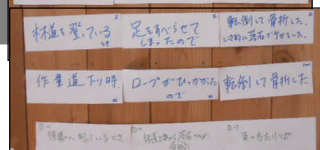


実地研修

実地研修では、班別に危険予知活動(KYK)の実践と、リスクアセスメント研修のテーマに沿った危険要因の洗い出し作業を行いました。



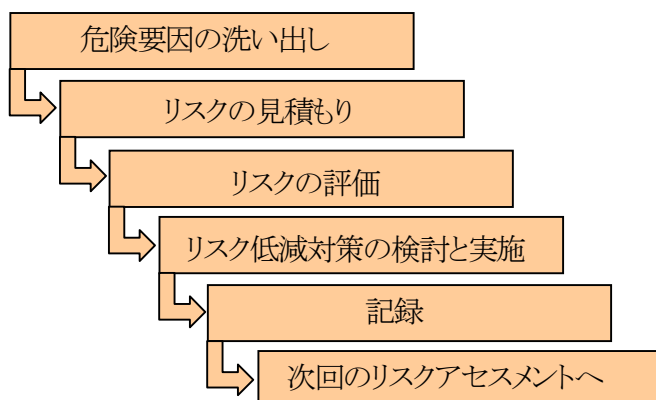
危険要因洗い出しからリスクアセスメントへ



午後からは休憩棟で、持ち帰った危険要因の洗い出しからリスクアセスメントに挑戦。参加者が書き出した『危険要因の洗い出しシート』を壁に貼り出すと壁3面に貼るほど多くの要因が集まりました。

(写真提供:森林部会 佐藤 武晴氏 (5期))

《 リスクアセスメントの手順 》



貼りだされた課題の中から班別に抽出し、リスクの見積もりから低減対策の検討までを討議してもらい、それぞれ発表いたしました。

まだまだ課題はありますが、参加者からは色々な意見が出ており成果は大きかったのではないかと思います。安全は止まる事の無いテーマであり、今後も開催していきたいと思います。

次回も是非ご参加ください。

『危険要因の洗い出しのポイント』

『 ～するとき、 ～したので、 ～になる 』という形で表現することが重要ですが、ここで如何に具体的に要因を捕らえた表現に出来るかがポイント。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

私の認識

野鳥その108

高橋 恒通

今回は通算第108回、丸9年目の記念すべき通過点ですから、ガンカモ目ガンカモ科の野鳥は関東地方では滅多に逢えない冬鳥で淡水ガモのトモエガモ(漢和名:巴鴨、英名: Baikal Teal、体長L=40cm)をご案内します。

トモエガモは前々稿のヨシガモと甲乙つけ難いほどバーダー達に好まれる野鳥です。

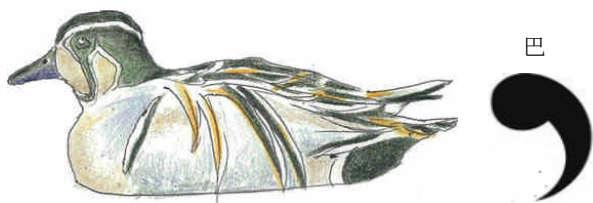
最初に英名の“Baikal Teal”から解説しますと、^{バイカル}Tealとはコガモ、マガモ、カルガモなど淡水ガモの総称です。故に直訳すると“バイカルの淡水ガモ”となります。

トモエガモの世界地図上の棲息分布は、繁殖がバイカル湖を含む極東シベリアで、越冬地は日本、台湾、中国の東南沿海地域です。

これは正しく前稿でご案内したヨシガモのそれに完全に重複するし、その中にスッポリと納まってしまいうほど小さく狭いのです。

さて、英名が繁殖地由来のトモエガモの和名は成鳥♂の体色由来であるからです。

それを以下に説明いたしましょう。



黒色の嘴、額から頭頂部が暗褐色、それを囲む様に細い白線が目立ちます。そして顔は目を囲む黒色、黄白色、金属光沢の緑色がまるで巴形の模様になっております。

トモエガモ(巴鴨)の名前の根拠は正にこの模様がある事を、日本人なら誰もが納得しガッテンされるものと、私は認識しております。

その他の部位の体色は、喉下が黒色、胸前は黒斑のある淡黄褐色、脇腹に白色の縦線、背面は褐色、肩羽に黄色と黒の長い羽根があり、そして下尾筒は黒色です。また成鳥♂は真正面から見ると頬がふくれて見えます。

これに対して成鳥♀はヒドリガモやコガモやマガ

モの♀と似た地味な褐色です。但し、嘴の基部に丸形の白色斑があり、これがポイントです。

棲息環境は、池、河川、湖沼、湿地などで、行動様式はこれまでご案内の淡水ガモのそれと同じで、夕方になると水田や河川に移動しイネ科の植物などを食べます。

越冬の為に我国への渡来は、何故か本州の日本海側に多く太平洋側に少ないと言うハッキリした傾向がある事が判っております。

今回の冒頭“トモエガモは関東地方では滅多に逢えない〜”と表現しましたのには幾らかの誇張が含まれている事を白状しますが、少なくとも私が日本野鳥の会に入会し28年の経験の中からのものです。本稿ご愛読の同志の中には「俺はトモエガモを毎年観ているヨ」と仰る方も居られると思いますけど、何故かトモエガモには越冬場所に偏りがある為によるものと認識しております。

最近では「相模貯水池にトモエの♂が居たヨ」と言うメールが飛び交えば、その目的の為にだけに遠方からカメラや望遠鏡持参で来る人が多いと言われているのも事実です。

ビギナーでも一度みただけで覚えられる淡水ガモを挙げますと、オシドリ、ハシビロガモ、オナガガモ、ヨシガモ、そしてトモエガモなどですが、就中、トモエガモに逢えると言う事は「僥倖」と言っても過言では無いと思っています。私自身これまでにトモエガモの♂を観察できたのは相模原貯水池での2回と、丹沢湖では、遠くて“トモエガモの♂らしい”と言う場面が一度あったのみです。

ご愛読の同志の皆さんもトモエガモ♂に逢って是非とも“ハッピー”とか“ラッキー”と言う料簡に浸ってみてはいかがですか…

(参考資料)

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社

◎フィールドガイド日本の野鳥、野鳥ブックス②、高野伸二著、(財)日本野鳥の会

(イラスト) 広報 大塚 晴子



古今和歌集

『フサザクラに想う』

<鳥飼 一俊 11期>

「よのなかは なにかつねなる あすかがわ きのうのふちぞ きょうはせとなる」

という歌は、古今和歌集に所収されているそうです。飛鳥文化の花開いた地では当時、乱伐により森林が荒廃し、飛鳥川も土砂流出が多く、洪水のたびに川の姿が変わり、人々はその姿に有為転変の世のさま、人の世の浮き沈みを見たそうです。

私たちのホームグラウンド「やどりき水源林」を眺望する「寄大橋」の上に立つと、私はいつもこの「よのなかは…」を口ずさんでいます。まさに昨日の淵は今日の瀬となっています。千年も二千年も、いいえもっと昔からこのような姿だったのでしょうか。さらに、はるかかなた数百万年前の有史以前に思いを馳せれば、この白緑色の河床を覆う土砂は遠く離れた南海の火山活動が噴出した物、そしてその海底火山がまとまって数千キロをここまで移動してきたとか。「きょうはせとなる」処(どころ)ではないスペクタクルです。



未だ川が荒れなかった時の寄大橋から見た北側河原

その寄沢は氾濫の歴史といえるでしょう。氾濫を奇貨とする植物があります。そう、フサザクラです。寄沢では著しい存在感を持って私たちに迫ります。春、丹沢の谷沿いを歩けば深緋色の花をつけた高木フサザクラの群に出会います。花といっても花びらはなく深緋色は雄しべの集まりです。よく見れば雌しべも中のほうに見えます。肌寒い沢風に揺れる花の様子は風情があります。花が終わると特徴のある葉を沢山茂らせます。三角状の広卵で先端が長く伸び鋸歯がところどころ角のように飛び出しています。夏、沢を渡る風にさらさらと音を立てるのです。秋には翼のある実をふんだんにつけ、黄葉します。冬芽は黒褐色の芽鱗に覆われます。芽鱗には白い微毛の縁取りが施され、ルーペでのぞくとその美しさに感嘆の声が漏れます。風媒花、風散布、攪乱依存のフサザクラは四季を通して丹沢を代表する樹だと勝手に認識しています。

「あすかがわ ふちはせとなる よなりとも おもいそめてむ ひととはわすれじ」(古今和歌集所収詠み人知らず)



花



夏の葉



実



冬芽

写真: 樹木図鑑



本の紹介

< 渡部 公 7期 >

『森林 飽和』NHK ブックス 1193 太田猛彦 著

1,100 円 + 税

著者は東京大学大学院教授を長く務め、現在は東京大学名誉教授・農学博士、FSC ジャパン議長。専門は森林水文学・砂防学・森林環境学である。我が国の山の歴史を江戸時代からたどり、山はどう破壊されたか、どのように緑が回復したか書かれている。その後森林が増加した結果、手入れが行き届かない山で何が起きているか、今後の国土管理はどのようにあるべきかが提言されている。著者は、林野庁の「東日本大震災海岸林再生検討会」座長を務めたことから、海岸林の歴史と役割、海岸林の再生についても書かれていて、興味深い内容になっている。「みどり」に携わる者には、是非お勧めしたい一冊である。

(FSC: Forest Stewardship Council 森林管理協議会)



活動短信



今回の掲載 12/12～1/20

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 箱根仙石原ススキ草原の環境保全作業体験

日 24年12月12日(水)8時半～15時、晴れ

場 箱根仙石原 トラスト緑地ススキ草原

参 トラスト会員と一般応募者 20名

県 常盤様

財 壹崎様、斉藤様、永島様 看 青木様

イ L村井⑨、小野⑦、杉崎⑩

神奈川の良好な自然環境を保全し次の世代へ引き継ぐために、箱根仙石原トラスト緑地・ススキ草原の環境保全体験が行われました。現場は来春、火入れの際の視察をする台地上のススキ刈でした。この日の箱根は風もなく、暖かく作業すると汗ばむ陽気でした。さらに杉崎さんのユーモアたっぷりのストレッチで参加者は心身共に緊張がほぐれリラックスして良い作業が出来たと思います。県民参加の森林づくりのリピーターも多く手慣れた動きではありましたが、この時期枯れたススキの切り口は鋭く竹のようで手を突いたり転ぶと危険なので慎重に作業をするよう指導しました。

作業後のお楽しみに「箱根高原ホテル」の温泉入浴というおまけつきもあり、帰路、バスの中で「今日の作業は楽しかったですか？」の問いに、ほとんどの方が両手を挙げ万歳状態で「楽しかった！！」と叫んでいました。

ヒヤリハットもなく、私にとって平成24年最後にふさわしい活動でした。

(記 村井正孝 9期)

◆ 宇津木の森再生プロジェクト2012第4回目活動

日 24年12月23日(日)9時半～16時、曇り

場 八王子市久保山町宇津木台緑地(八王子市所有)

参 大人10名+子供2名、計12名

スタッフ 宇津木台 森遊会代表 金森様(10期)

特別参加 松山様(10期)

イ 中元⑩

宇津木台緑地は約4haの八王子市の雑木林で、毎月第4日曜日を活動日と定めて、「市民に憩いの場」を、「子供たちに環境教育の場」を提供し、地域

社会に愛される森づくりを目指している。オリンパス技術開発センター宇津木に集合して挨拶。準備運動の後、コンサートエリアにて伐った大木を全員でベンチにする位置まで移動させる。コンサートエリアは7名で階段作りと枝の片付け、側溝を埋める作業を行う。残りの参加者は竹林に移動して風で倒れたと思われる竹を伐採する。未整備のエリアにも取り掛かる。昼食は、参加者が持ち寄った具材でトン汁を作る。午後はミニ門松を作る。宇津木台緑地にはマダケが無いので事前に用意しておいた。門松を飾る風習の意味や作り方を説明する。この活動では、昨年のこの時期に同様に指導しており、2回目の方は手際が良かった。子供の参加は2名あったが大人フォローのもと無事に完成させた。各々個性的な門松を前に記念撮影。16時に解散となった。

(記 中元秀幸 10期)

◆ 24年度川崎市里山ボランティア育成講座 第6回

日 25年1月5日(土)9時半～15時、曇り

場 里山散策 黒川汁守地区周辺

実習・閉講式 黒川野外活動センター

参 一般市民による講座メンバー27名

スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか8名

イ L金森⑩、清水⑧、小林⑩、

福島⑪、門澤⑫、山崎⑫

全6回講座の最終回。前日からの寒波と曇り空で寒い一日となった。明治大学農学部倉本先生から里地の全体構造と実際に目の前に広がる集落や水田・河川との関係についてわかり易い説明があった。ビオトープの考え方、落ち葉かきは生態系にとって是非か、多摩丘陵の雑木林の特徴など、最後に汁守神社の大木林を観察して終了となった。センターへ移動して温かいトン汁で昼食をとる。午後は実習を行う。講座修了後に地域の団体で活動を始めるにあたり、竹林整備と植樹は特に知っておく必要があり講座に取り入れた。道具の手入れは自主的かつ上達し、本講座の成果が表れている。川崎市公園緑地協会理事長から一人一人に修了証を手渡し閉校となった。アンケート、人材バンク登録申請書への記入により次年度へ繋げてゆく。

(記 金森 厳 10期)

◆ 林業体験 楽しく学ぶ「森づくり」⑥(全7回)

真竹展示林の間伐と竹馬作り

日 25年1月13日(日)10時～16時、晴れ

場 県立21世紀の森

参 21名(大人10名、子供11名)

スタッフ (株)足柄グリーンサービス(AGS) 2名
(杉崎所長、藤原様)

イ L 杉崎⑩、阿部⑧

AGS 杉崎所長の紙芝居で、森林(水源)の役割や保護活動の大切さについての講話後、午前には家族単位の2班編成で、真竹展示林の間伐と各人竹馬用の竹の選定伐を行う。小さな手で枝払いのノコギリさばきで一苦勞。マイ竹馬用選伐も、節合わせにまた一苦勞。

午後は日溜りの運動広場のブルーシートの上で楽しい竹馬作り。竹馬作りの経験者は少数だが、約7割の人が竹馬ごっこの経験者。足場の板の曲尺を使つての寸法出しやノコギリでの切断等、親の手を借りず皆一心不乱に取り組んだ。足場の取付けはシュロ縄で力を入れて締付けるので、ここは父親の出番。家族が一体となり取り組む作業なんて、通常的生活の中ではなかなか観られぬ光景です。自分で作った竹馬に乗ることが出来、今日一日全員「楽しかったー」の笑顔がうれしい。

予定終了後、参加者の約半数が時間延長し予定外のヒノキのマイ箸作りに挑戦するなど、穏やかな好天に恵まれた、有意義な林業体験:楽しく学ぶ「森づくり」でした。

(記 杉崎 恒三 10期)

◆ 森林づくり体験講座F

日 25年1月20日(日)、晴れ

場 逗子市沼間 私有林 0.52ha

参 45名(内女性 6名)

財 豊丸様、永島様 看 青木様

スタッフ 神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター
市川様 山本様

イ L 渡辺③、堀江④、安部⑤、須長⑥、久保寺⑦
草野⑧、海野⑩、木島⑩、中村⑪、小笠原⑩

天候が心配されたが、風もほとんどなく暖かな冬の1日であった。2013年最初の活動で申込者が満員ということであったが、寒さが続いたせいか欠席者

もあり45名の参加となった。JR 田浦駅に集合してマイクロバス3台に分乗して現地に向った。

活動場所はJR横須賀線にそった横須賀市上下水道局田浦配水場わきから入ったところであった。先日の雪が少々残っていた。

ほとんどの径が細いスギであったのでかかり木もせずにスムーズに間伐ができた。一部の班は枝打ちも行った。ハイキングコース脇のためハイカーが物珍しそうに遠くから見学していた。昨年の母の日に八王子にある老人施設から飛ばされた風船と花の種袋を見つける。どんなふう空の旅をしてきたのだろうか?

昼食後は渡辺リーダーからミニ講座が行われた。体験講座ということもあり、地球温暖化から、保安林、年間降水量、炭、水道使用量までとバラエティにとんだ話であった。参加者はひなたぼっこしながら耳を傾けていた。

帰りがけに県の方から沼間産のヒラ茸を頂く。早速、我が家の夕食の卓にのった。香りもよくおいしかった。山の恵みに感謝。

(記 小笠原 多加子 10期)

略語の説明

日: (平成) 年日付、 場: 場所、 参: 参加者、
県: (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)
財: ((公財) かながわトラストみどり財団)
スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
看: 看護師、 イ: インストラクター (○数字: 期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

かけがえない神奈川の自然を守るために

人も自然も
いきいき 丹沢

丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページは下記URLで
ごらんください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

やどりき水源林 ミニガイド

3月のトピックス

25年度やどりき活動開始!!
(インストラクターの新年度ミーティング)



(広場にて、3月10日)

4月の水源林

春～春～春の訪れです。草花の芽吹き、花もたくさん咲きます。
皆さんいらっしやい!!

「森の案内人」情報

春まただ中です。案内人もはりきってお待ちしています!!

●実施時間: 毎週土曜・日曜・

午前10時・午後1時～2時間程度

●集 合: 水源林入口ゲート前

●内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ: (公財) かながわトラストみどり財団 TEL: 045-412-2255

携帯: 090-8580-5348

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

『森のふれあい館 野鳥展』

(3月7日)～6月30日(日)

神奈川県足柄下郡箱根町箱根 381-4

森のふれあい館

9時～16時半

入館料 大人 650円

平日 中学生 650円

小学生 400円

土日祝日の小中学生は無料



問い合わせ先: 森のふれあい館 0460-83-6006

関連サイト: <http://www.hakone.or.jp/morifure>

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
小沢章男まで

Mail: a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel: 0467-52-2191

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel/090-6150-6173

Mail: s.akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記



★5年間の広報部活動、長いようで短いようで、その間 たくさんの方々の支援を得て大事な会報の襷が断ち切れず続けられた事と有能な後輩たちにバトンタッチ出来た事は嬉しい限りです。今後はNW活動派遣担当として皆様が楽しく活動出来るための縁の下の方を持ちになるよう頑張る所存です。

(村井)

★春の陽気に誘われて、どこかへお出かけしたくなります。

でも、うたた寝にも誘われてしまうこの頃です。

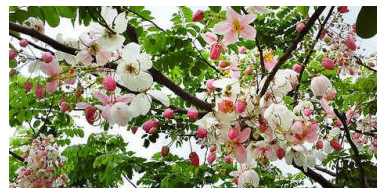
(赤崎)

★「山笑う」という表現が気に入っています。今年の春は大笑いが早くも聞こえてきます。

(水口)

★Finish(ごちそうさま)今回の旅行でやっと一つ覚えた英語(先生は3歳の娘)このスピードでは会話まで何年かかるやら!! (小沢)

★



(Palawan-cherry パラワンチェリー)

26年前フィリピンで出会った美しい桜です。葉が槐のようなのでマメ科のようです。

(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒 価 200円 送料共)

編集人: 小沢 章男

事務局: 竹島 明

広報部: 水口俊則 松本 保

真貝 勝 鈴木 朗

鈴木松弘 大塚晴子

村井正孝 徳岡達郎

加藤暖子 赤崎さほり

森 義徳

寄バス停から歩いていける桜や花の情報

バスは新松田から
でています。



・土佐原の大きなしだれ桜
(上の写真)

・宇津茂の大きなしだれ桜

・中津川沿いのしだれ桜

・中津川沿いの花壇

*そしてやどりき水源林の桜

山や散策のお帰りに是非お越しください。

山 麓 の オ ア シ ス ⑱

～ お 食 事 処 ～

こ ま ち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店